

第1 学年生活科の実践

1. 単元名 みんないっしょに (全12時間)

2. 単元目標

- ・自分の一日の生活を振り返り、家の人といっしょに仕事や趣味のことをする中で、家の人といっしょにしたり、自分の役割が増えたりすることの喜びを感じるとともに、家の人のことや自分でできることが分かり、家庭における自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気をつけて生活する。

生活への関心・意欲・態度	体験や活動についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
・自分の一日の生活を振り返り、健康で規則正しい生活を送るとともに、家庭の一員として、自分の役割を果たそうとしている。	・家庭生活やそれを支えている家の人のこと、自分のことや自分のできることなどについて考え、家庭生活が楽しくなるように工夫し、それを振り返って友達と伝え合っている。	・家庭生活を支えている家の人のが分かり、自分でできることに気付いている。

3. ひびき合う三の丸の子どもたち

【話す・聴く】

国語の学習内容と関連させながら、継続的に「話す・聴く」の指導を行っている。低学年の段階でもあり、「友だちの考えを聴きたい」よりも「自分が話したい」という気持ちが強いいため、最後まで聴けなかったり、他のことが気になってしまったりすることがあった。「さいごまで」を意識することで、思ったことがあっても、最後まで聴く習慣が身についている子が増えてきた。また、「聞き方あいうえお」をクラスみんなで考えた。教室に掲示し、できていないときはクラスで再確認している。相手を見て聴く、友だちの考えに反応する（うなずく）という点については、自然にできる子が少しずつ増えてきている。

「話す」については、言葉だけよりも黒板に絵をかいたり、物を操作したりして話すなど、言葉以外のものも使いながら、自分の考えをわかってもらおうとする機会を多くもってきた。必要なときには、自然と黒板の前に出て話す子が多い。相手意識をもって話すよう継続的に指導してきた。

【関わり合い・ひびき合い】

ひびき合うためには、「話すこと」「聴くこと」が前提にあり、それを「つないでいくこと」が大切であると考え指導してきた。学習中は、友だちの考えを自分の言葉で再度話させたり、友だちの考えについてどう思ったかを聞いたりして考えをつなぐこととで、少しは深まったり広がったりしているように感じる。また、ペアトークやグループトークを色々な学習場面に意図的に取り入れることで、関わり合う経験を積んできた。

4 単元と指導について

【単元について】

児童にとって家庭は、自分を支え、育ててくれる家族がいるところである。しかし、児童にとってあまりにも身近であるため、その大切さに思い至らないこともある。本単元では、自分が家族とともにしていることや、家族にしてもらっていることをふりかえり、家族のことや自分でできることをなどについて考え、自分の役割を進んで行うようにすることを目指す。そのために、各家庭において、「自分のことは自分です」「手伝いをする」「家族が喜ぶことをする」など、実際に具体的な活動や体験をすることを通して、充実感を持つことができると考える。そして、家族の中で自分の役割に気づかせ、仕事を

継続することで、家族の一員として役立っているという自信をもたせていく。

本単元は①自分の一日をふりかえる②家の人と一緒にやってみる③自分でできることを考え、やってみる④感謝の気持ちを表現する、という流れで学習を進める。家族構成や家庭生活の様子は異なるので、それぞれの家庭の違いやよさを尊重し、家庭の理解と協力を得るなど、連携を図りながら学習を進めたい。

【指導について】

〈切実な問題について〉

自分自身の生活をふりかえる中で、家族の存在は欠かせない。自然と自分を支えてくれている家族のことに目が向くであろう。家族がしてくれていることを考えたり、体験したりする中で、家族の思いや願いに気づくことができるだろう。そこで、「家族のためにできること」「自分でできること」を考え、実践していく。自分と家族のより生活のために「自分でやってみたいこと」「家族のためにしたいこと」「続けていきたいこと」を児童の切実な問題として捉え、実践につなげていきたい。

〈ひびき合いについて〉

家庭それぞれの事情や環境には当然、違いがある。故に、友だちが「家でどんなことをしているのかな」など、友だちの生活にも関心をもつだろう。本単元では、関わり合いを通して、自分の生活と友だちの生活を互いに認めていくようにする。関わり合う中で、友だちのしていることや体験したことを自分の生活の中にも取り入れていこうとする姿が見られるのではないかと考える。その姿をひびき合いの姿としたい。本時では、子どもたちが家の人にはたくさんの仕事があることに気づき、それについてどう思うか話し合う。話し合う中で、自分にも家でできることがあることに気づいたり、できることをしたいという気持ちをより強く持ったりする姿をひびき合いの姿としたい。

単元目標

○自分の1日の生活をふりかえり、家の人といっしょに仕事や趣味のことをする中で、家の人といっしょにしたり、自分の役割が増えたりすることの喜びを感じる。
 ○家の人のことや自分でできることなどが分かり、家庭における自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気をつけて生活することができる。

家ではどんなことをしているかな

家のことに目を向ける。

- ・毎日していることがあるよ。 ・帰ったら宿題するよ。 ・ご飯をみんなで食べるよ。
 - ・友達はどうかな? ・ご飯を一緒につくっているよ。
- 一日が振り返られるにワークシートを使う。
- 似ていることがたくさん。・習い事の練習をしている子もいるんだね。・違うところもあるよ。

家の人と一緒にしていることあるかな?

家の人に目を向ける。

- ・ご飯を食べる。 ・宿題を一緒にしているよ。 ・キャッチボールが得意だから一緒にするよ。
 - ・お風呂に入るよ。 ・お手伝いしてるよ。 ・お兄ちゃんと将棋するよ。
 - ・寝る前に遊んでいるよ。 ・一緒にやりたいな。
- 話し合いながら、やりたいことを決めていくようにする。

家の人と一緒にしよう

改めて家の人を過ごす楽しさを味わう。

- ・おでかけして楽しかったよ。 ・トランプして遊んだよ。
- ・サッカーして遊んだよ。 ・お父さんと将棋したよ。
- ・すもうをして楽しかったよ。

- ・赤ちゃんの世話したら、喜んでくれたよ。 ・お風呂そうじしたら、きれいになってほめられたよ。
- ・いっしょに料理したよ。

(家庭の人より) またしようね。楽しめたね

(家庭の人より) 助かったよ、またよろしくね。ありがとう。

- ・お家の人は忙しいよ。 いっぱい仕事があるから大変だよ。

どんな仕事があるかな

家の人の仕事をしらべよう

家の人のためにできることをしたい気持ち。

- ・洗濯をほす、たたむ、取り入れる、しまう ・料理 (朝、昼、晩) ・掃除 (部屋、お風呂、トイレ)
- ・子どもの世話 ・買い物 ・お風呂をためる
- ・学校の準備 ・習い事に送る

家の人は忙しい。色々してくれてうれしいな。毎日大変だな。自分にできることはないかな。ありがたいな。お礼を言いたいな。

自分が家でできることをしよう (スマイル作戦)

計画しよう

実行しよう

どんなことをしたら、喜んでくれるかな。毎日できることがいいかな。家の人にも相談してみようかな。

毎日の大変さを考え、続けられるものを考えさせる。

したことを紹介しよう

- ・「ありがとう」と言ってもらってうれしかった。 ・一人でもできたよ
- ・これからも続けたいな。 ・やっぱり家の人って大変だな。

続けてしよう。

家の人にありがとうの気持ちを伝えよう

・いつもありがとう ・これからもできることががんばるよ。

6 本時について

- (1) 本時目標 家にはたくさんの仕事があることがわかり、家の人のためにできることを考えることができる。
- (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時のめあてを確認する。 2. 自分が調べてきたことをペアで紹介する。 3. どのような仕事を家の人がしているか発表する。 4. 家でしていることを聞き、どう思ったかを発表する。 5. 自分ができそうなことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の想起をし、今日のめあてを確認することで、学習の意欲を持てるようにする。 ・全体で話す前にペアで交流し、自分の考えに自信が持てるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>いえの人が、いえでしているしごとについてかんがえよう</p> </div> <p>ごはんを作るよ。せんたくものをほす。せんたくものをしまふよ。 せんたくものをたたむ。アイロンをかける。あらいものをする。 あさおこす。おかいものをする。かみをむすぶ。あかちゃんのせわ。 おふろをわかす。おふろをそうじする。しよつきをかたづけろ。ごみだし。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんしごとがあって、たいへんだな。 ・なにかできることは、ないかな。 ・たくさんしてくれて、うれしいな。 ・おれいしたいな。 </div> <p style="text-align: center;">⇩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じぶんができることじぶんでやろう。 ・じぶんができることをやってあげたいな。 ・いえでおてつたいをしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭によっては、自分がやっていることもあり、適宜話を聞き認める。 ・自分の家での一日と、家の人との一日を比べてたくさん仕事があることを実感させる。 ・ワークシートに家の仕事がたくさんあることについて、どう思うか記入する。 <p>◇家の仕事について積極的に考え、発言している【関】</p> <p>◇自分が家の人に支えられていることに気づく【気】</p>

7. 実践を終えて

(単元の作り方)

この単元は授業内で終わるものではなく、家庭での体験を通して成り立つものである。学習の目標でもある「自分の家庭での役割に気づき、自分のできること積極的に行うようにする。」ということねらって、単元を構成していった。教師が主導していくものでなく、できるだけ子どもの思考が自然につながっていくように考えた。初めに自分の一日の生活を振り返り、次に家族に目を向け、最後に家庭の中で自分にできる役割について考えていった。難しいことは、家庭によって環境が違うことだった。家でやったことを発表し合い、友だちの意見を聞いたり質問したりしながら自分に取り入れられるものは家でやってみるような形で進めた。

(子どもの切実な課題)

「いえの人が、いえでしているしごとについてかんがえよう」が本時のめあてだった。本時の初めに家の人が家でしている仕事について、調べてきたことを発表した。思いの外たくさんの意見が出て時間を使うことになってしまった。そのため後半部分のその発表をもとに考えたことや思ったことを話す時間が少なくなってしまった。「家の人にはたくさんの仕事があって、大変だから何かしたい」という思いが切実な課題につながっていくはずだったが、1時間では時間が足りなかったと思う。時間配分の見直しや学習計画の再考も必要だと思った。仕事がたくさんあることを自覚することを省くことはできず、その多さから次の課題が生まれるので十分な時間の確保が必要だった。また、分類してまとめることや少し取り上げるものもあることで、より自分のこととして振り返り、どうしたいという思いがふくらむのではないかと思った。

(子どもの変容)

前に述べた通り発表会のようになり、友だちの考えに触れることは少なかった。ただ友だちのたくさんの発表を聞いたことで、「たしかにそういう仕事もある。」と気づいたり、「自分がやっていることがある。」と気づいたりすることで、自分の家庭や自分のこととして考える子もいた。それが自分のやりたいお手伝いにつながっていった。

(成果と課題)

「誰もが話そうとする姿がある」「発言力がある」「反応が多い」という点が育っている姿だった。聞き方がさらに育つことで、ひびき合う基礎となる「聞き合う」ことにつながっていくと思う。

子どもの「やってみたい、まねしてみたい」など子どもの思いを十分に膨らませながら、進んでいくことが必要だった。単元の展開を見直すことも必要だが、その時間でねらいに近づくために、教師の出番はどこなのかということも考えていかなければならない点であると思った。